



令和6年度
全国学力・学習状況調査
結果概要

保護者・地域の皆様におかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。さて、本年4月に6年生を対象に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、更なる分析を深め、児童の学力向上に向けた改善プランを作成して学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

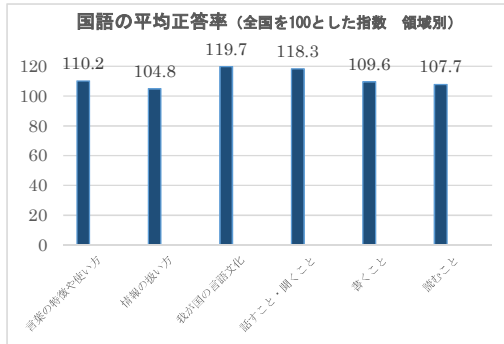
況調査の本校の結果概要をお知らせいたします。本校では、この調査結果を踏まえ、更なる分析を深め、児童の学力向上に向けた改善プランを作成して学校の教育計画や日常の授業改善に取り組みます。

※下記の「」の表現 ↓ は、北海道教育委員会の分類方法に基づいたものです。

国語 **全国の平均正答率と比較して「相当高い」結果でした。**
全道の平均正答率と比較して「相当高い」結果でした。

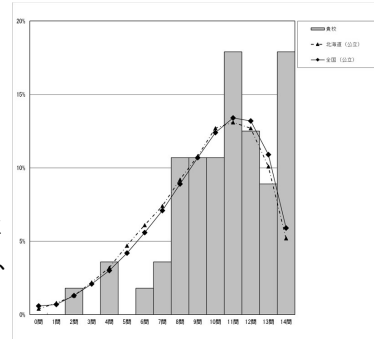
①領域別の結果

- ◆言葉の特徴や使い方に関する事項では、主語と述語の関係を捉える問題や漢字を書く問題で全国を上回っていました。また、情報の扱い方では、情報と情報との関係付けの仕方や図をもとにした語句と語句との関係の表し方の問題の正答率が全国を上回っており、学習の定着がみられました。
- ◆「話すこと・聞くこと」領域では、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する問題や自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題の正答率が高く、力を発揮しました。
- ◆「書くこと」領域では、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする問題の正答率が全国を上回りました。また、「事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わる書き表し方の工夫ができる」ことを見る問題では全国を上回ってはいるものの、「事実」と「感想、意見」を区別して記述することに苦労した児童が多かったようです。
- ◆「読むこと」領域では、登場人物の人物像を具体的に想像する問題や物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりする問題が全国を上回りました。



②正答数の分布

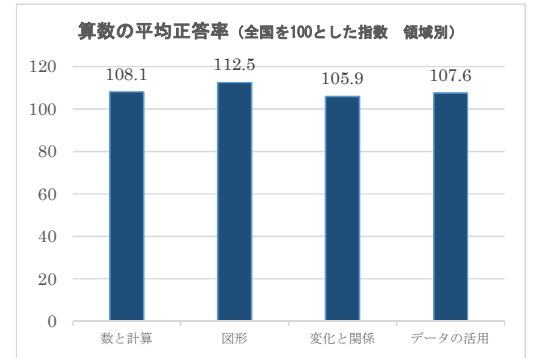
全14問のうち正答数4問以下の児童の割合は全国・全道とほぼ同様でした。正答数5～9問の割合は相当低く、10問以上の割合は相当高くなっています。全体的に正答数の多い児童の割合が高い分布となっています。また、分布のグラフには表れていませんが、無回答率が低く(2.4%)、問題に取り組む意欲や解き方の見通しがもてた問題から取り組む等、学習に向かう力の向上も高い正答率に繋がっています。



算数 **全国の平均正答率と比較して「高い」結果でした。**
全道の平均正答率と比較して「相当高い」結果でした。

①領域別の結果

- ◆「数と計算」では、数量の関係を口を用いた式に表すことができるかをみる問題や除数が小数の割り算の計算は全国よりも高い正答率となりました。また、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題は、全国を上回る正答率であったが、相対的な正答率は低く、課題と捉えることができます。
- ◆「図形」では、直方体の見取り図をかく、円柱の展開図から読みとった直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているか、正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、全国を上回る結果となり、学習内容の定着がみられました。また、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題は全国を上回る正答率であったが、相対的な正答率は低く、課題と捉えることができます。
- ◆「変化と関係」では、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題は全国よりも高い正答率となりました。しかし、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が残りました。
- ◆「データの活用」では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題や表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題は全国よりも高い正答率となりました。しかし、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題に課題がみられました。



②正答数の分布

算数の問題数は全部で16問でした。正答数1～4問の割合は全国・全道とほぼ同様の状況ですが、4問正答の割合が突出しています。5～11問の割合が全国・全道より低いが、12問以上の正答数の割合が高く、全体的に正答数の多い児童の割合が高い分布となっています。算数の授業においては、これまでT.Tや少人数指導など、指導方法の工夫を継続してきました。タブレットPCを用いた、AIドリル活用など個別の学びが進んでいる成果と捉えています。今後も基礎基本の定着を進めながら、友達の考えを理解し、自分の考えと比較しながら説明する力を育てる等、協働的な学びを充実させて児童の学力向上を目指していきます。

